

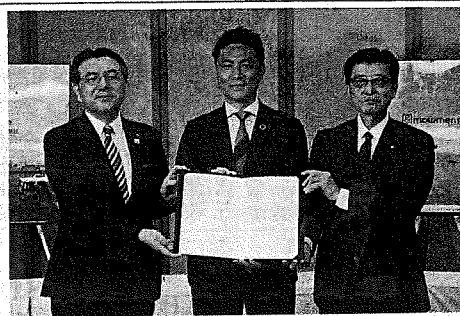
リンゴ搾りかすで家畜飼料

黒石に製造工場開設

市、県と商社が基本協定

畜産飼料の輸入卸売販売した肉牛・乳牛向け飼料の製造を手掛ける商社「カス」造工場を黒石市内に開設ケディア「トレーディング」し、食品残渣などを活用し(本社さいたま市)が、リンゴ搾りかすを原料とし「製造販売事業」に乗り出す。

リンゴの搾りかすを原料とし「製造販売事業」に乗り出す。



基本協定書を交わした(左から)三浦部長、黒石市代表取締役、高樋市長

「リンゴの搾りかすの飼料」という。同社は同市浅瀬石地区に建設中の青森工場(仮称)は、10月から稼働予定。搾りかすは青森県りんごジュース(本社黒石市)が提供し、従業員は地元からの雇用を予定。主に東北地方への出荷を想定し、稼働初年度は約500トの製造を目標とする。県内での同種の先行事例は「聞いていない」と同社が言う。

出穂最盛期10年で最速

21年と並ぶ高温で胴割れ懸念も

県「攻めの農林水産業」推進本部が1日発表した水稲出穂状況(7月31日現在)によると、県全体の出穂割合は77%で、前年(4%)を大幅に上回った。出穂進度が50%に達した日を目指す「出穂最盛期」は7月30日、過去10年で2021年と並び、最も早かった。出穂が早まったのは、幼穂形成期が前年より3、4日早かったことに加え、平年より高温だったため、地域別に見ると、西北90

「出穂最盛期」は前年より6日早く、前年より4日早かった。出穂進度が50%に達した「出穂開始」は7月27日、前年より5日、前年より3日それぞれ早かった。

出穂後の高温は玄米の内部分割れ「胴割れ米」など高温障害が懸念される。

環境保全、地元の産業振興、許認可取得への協力などを盛り込んだ協定書が交わされた。青森県りんごジュースの竹鼻孝為代表取締役社長、県商工労働部の三浦雅彦部長、石井代表取締役が

津軽3市場でリンゴ初競り

2023年産リンゴの初競りが1日、弘前市の弘前中央青果、板柳町の津軽りんご市場、五所川原市の五所川原中央青果の3市場で行われ、

22年度、1兆円に迫る



実績

「花祝」を中心とした上場された。春先の高温で開花が早まった影響から上場数は3市場いずれも前年割れとなったが、弘前弘前中央青果では花祝の高値が5年連続で3万円円を突破するなど、全体的には堅調な取引だった。(稲葉智絵、下山和枝)

に向けて企業と1次産業の融合は「重要。情報共有しながら、互いが地域貢献できるような努力したい」、三浦部長は「(エコフイード事業が)いずれ青森発で海外の畜産市場や日本の未

来に貢献する」と期待している。と宮下宗一郎知事のメッセージを代読した。石井代表取締役は、リンゴ飼料で育てられた食肉を将来的にブランド化した意向も示した。(木村歩)

前年度比39.4%減
2年ぶりに減少
県内地方公共団体
22年度貸し付け
青森財務事務所は1日、県内地方公共団体に対する財政融資資金地方資金の2022年度の貸し付け状況を発表した。貸し付け実績は前年度比39.4%(214億円)減の329億円と、2年ぶりに減少した。同資金は学校や病院、上下水道、社会福祉施設といった建設資金を必要とする県や市町村に対し、国債発行を通じた調達した資金を貸し付けるもの。貸し付け

議長に石田氏選出
副議長には葛西氏
平川市議会
議長に石田氏選出、副議長には葛西氏。平川市議会は1日、改選後初となる臨時会を開き、正副議長選で議長に石田隆芳氏(64)美郷会、副議長に(須々田宏)

議長選は15議員(1人欠席)の投票で、立候補した3氏のうち石田氏が8票、佐藤保氏(ひらかわ市民クラブ)が6票、斎藤律子氏(共産)が1票、副議長選には有効票13票のうち、立候補した葛西氏が11票、残り

的に判断し、適期収穫に努める。モモ、ナシは徒長枝の整理や支柱入れ、枝つりをする。モモは果実の着色や地色の抜け、硬さなどを総合的に判断して適期収穫に努め、せん孔細菌病の枝病斑は枝ごと切り取り適切に処分する。

シンクイムシ類、カメムシ類、ハダニ類など病害虫の発生動向に十分注意して適正に防除する。

台風などに備え、風害防止対策を万全にする。(成田真矢)

対馬智範取締役部長は「利益需要で引き合いが強くなる」と語り、好スタートを切った」と評価。各品種とも開花が早く生育は順調で、食味も良好という。春に強風が続いたことへの懸念が、今後の生育抑制を進めている。この

ささん
議員定数や政務活動費などの議会改革のほか、人口減少問題や平川ねぶたを核とした観光誘客推進など



議員定数や政務活動費などの議会改革のほか、人口減少問題や平川ねぶたを核とした観光誘客推進など